

令和元年11月15日
(2019年)

保護者の皆様へ

吹田市立南千里中学校
校長 光安 恵介

令和元年度全国学力・学習状況調査の分析について

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的として、3年生を対象として『全国学力・学習状況調査』を本年度も4月に実施しました。9月上旬には自らの学習到達状況を正しく把握するため、個人票とともに、問題用紙と正答例をあわせてお返ししました。吹田市教育委員会においても、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を分析し、吹田のホームページを通じて発表しております。

この調査は、中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語の3教科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

調査結果を客観的に分析することにより、どのような指導方法がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小学校・中学校における連続した取り組みが推進できるよう、具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。

各家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますよう、お願いいたします。

【国語】

(1) 概要

本校生徒の正答率は全国また大阪府の平均正答率は、すべての設問について、全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別でみた状況・成果と課題

○ 話すこと・聞くこと

(成果)・概ね良好な結果で正答率は非常に高い。

(課題)・話合いの話題や方向を捉え、自分の考えをもつ。

○ 書くこと

(成果)・非常に高い正答率である。

(状況)・自分の意見を具体的に書き加える設問では、無回答が少しあった。

(課題)・伝えたい事柄について、根拠を明確に書く。

○ 読むこと

(成果)・概ね良好な結果で、読む力は定着している。

(状況)・情報を整理し内容を捉える設問は少し正答率が低い。

(課題)・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(成果)・言語に関する基礎的な知識は概ね良好な結果である。

(状況)・封筒の書き方への理解が必要な設問の正答率が低い。

(課題)・封筒の書き方を理解して書く。

(3) 国語科における成果と今後の改善点について

平均正答率は全体的に高く、基礎的な力は備わっている。無解答率が非常に低く、記述の問題であっても積極的に解答している。

しかし、短答式の解答では正答率が低いことから、文章の内容を要約したり、説明したりすることなどに課題がある。また、情報を整理し、自己の考えを伝える力が不十分である。今後の授業の中で、文章の内容をまとめ、自分の言葉で説明するなどの活動をさらにとりいれ、自分の考えを正確に伝えるための力を育成する必要がある。また、自分の考えを書く解答のみ無解答が見られるので、普段の授業から自分の意見を伝えるための語彙力をふやす授業などを試みたい。

【数学】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はほぼすべての設問について全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○数と式

(成果)・基礎的・基本的な数学的技能は定着しており、概ね良好な結果である。

・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取り、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

(課題)・数の集合と四則計算の可能性について理解すること。

○図形

- (成果)・基本図形に関する問題はよく理解しており、正答率が高い。
 - ・証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を理解している。
- (課題)・付加された条件の下で新たな事柄を見出し、説明すること。

○関数

- (成果)・表から x と y の関係を式で表すことができる。
- (課題)・必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈すること。
 - ・具体的な事象から、関数関係を読み取り、問題解決の方法を数学的に説明すること。

○資料の活用

- (成果)・資料を整理した表から代表値を読み取ることができる。
 - ・基本的な問題について、確率を求めることができる。
- (課題)・資料の傾向を読み取り、批判的に考察し判断したことの根拠を、数学的な表現を用いて説明すること。
 - ・問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきか判断すること。

(3) 数学科における成果と今後の改善点について

全国と比較すると、ほぼすべての問題において平均正答率は高く、基礎的・基本的な数学的技能は定着してきている。しかし、特に関数や資料の単元において、図・表・グラフから必要な情報を選択し、数学的な表現を用いて説明する問題に対する無解答率が高く、課題がある。

基礎的・基本的な力を土台にして、問題を解くだけでなく、その根拠を確認しながら問題解決にあたらねばならない。具体的な事象に関わる、発展的な問題に取り組む時間を確保し、既習事項を今後学習する範囲に絡めながら、効果的な指導方法の工夫改善を続ける必要がある。

【英語】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はほぼすべての設問について全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別でみた状況・成果と課題

○ 聞くこと

- (成果)・日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。
 - ・まとまりのある内容を聞き、概要や必要な情報をとらえることが概ねできている。
- (課題)・聞いて把握した内容について、適切に応じた文を書くこと。

○ 読むこと

- (成果)・日常的な話題について、情報を正確に読み取ることができる。
- (状況)・情報を正確に読み取り、話のあらすじを理解しており、正答率が高い。
- (課題)・書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること。

○書くこと

- (成果)・自分の意見をまとめて、理由を添えて他者に伝えることができる。
 - ・文の中で適切に接続詞を用いることができる。
 - ・場面や状況から文の形式や動詞の形を適切に判断し、正確に書くことができる。
- (状況)・話や文法事項等を理解して正しく書くことができ、正答率が高い。全国値は大きく上回るものの、まとまりのある文章を書くことに関しては正答率が低い。
- (課題)・書こうとする意欲は見られるものの、与えられたテーマについて考えを整理し、内容を伝えることができない傾向にある。

(3) 英語科における成果と今後の改善点について

全国と比較すると、ほぼすべての設問について平均正答率が高い。「聞くこと」に関しては、事実や出来事などについての必要な情報を正しく理解できている。聞くことだけにとどまらず、把握した内容について適切に応じることができるようにする必要がある。「読むこと」に関しては、文構造を適切にとらえたり、動詞等の内容語を正確に読み取ったりしながら、書かれているものの内容や、必要とする情報を取り出し、活用することができている。読むことだけにとどまらず、読んだ内容について、自分の考えと照らし合わせた上で、整理して述べるようにする必要がある。「書くこと」に関しては、文脈から適切な文の形式や時制を判断することができている。様々なテーマに触れる機会を増やすとともに、今後はテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるようにする必要がある。

★全国学力・学習状況調査 「生徒質問紙」より

※全国・大阪府とのデータ比較との比較より

(1) 家庭生活について

- 「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値よりも上回っている。この質問に肯定的な解答をしている生徒の方が、教科における調査の正答率が高くなる傾向にある。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値よりも上回っており、「学校の授業以外での勉強」についても大阪府・全国に比べて長い時間取り組んでいる。教科における大阪府・全国に比べて正答率が高い要因の一つとして考えられる。
- 「読書は好きですか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値に比べて大きく下回っており、それに伴って読書の時間や、学校内外の図書館を活用する機会についても大阪府・全国を大きく下回る。
- 「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値に比べて下回っている。

改善・向上のために

□学校として

- 朝食を摂ることの大切さを、保健だよりなどを活用しながら生徒や家庭に伝えていく。
- 学習習慣の確立や主体的に学習に取り組む態度を育むために、生徒が主体的に学びに取り組むための働きかけを授業内外で行い、また家庭との連携を図る。
- 読書習慣の定着を図るために、授業の中で内容と関連する書籍を紹介したり、生徒会活動の中で読書習慣を高めるための働きかけをしたりするなどして、図書室の利用機会の増加をめざす。
- 学校生活について、家庭で話題にできるような働きかけや取り組みなどを積極的に行い、通信やホームページなどで、子どもたちの様子を家庭に伝えていく。

□家庭として

- 朝食の習慣化が継続されるようにする。
- 家庭学習や学校外での学習について、家庭での生活を見直し、子どもがより主体的に学習に取り組むことのできる環境を設定する。
- 読書習慣の定着のために、学校から発信される情報を共有しながら、家庭でできる働きかけを保護者が率先して行う。
- プリントやホームページなど、学校から発信される情報から子どもと共有できる話題により関心を持ち、その話題をもとに子どもへの働きかけを行う。

(2) 自分自身について

- 「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値よりも上回っており、大阪府・全国に比べて自己肯定感が高いことが分かる。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値に比べて下回っており、自己有用感が大阪府・全国に比べて低い傾向にあると考えられる。
- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値に比べて下回っており、達成感を感じる場面が大阪府・全国に比べて少ない傾向があると考えられる。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対する肯定解答は大阪府の値よりも上回っているものの、全国の値に比べて下回っており、社会の中での役割を果たそうとする意識に課題がある生徒もいると考えられる。

改善・向上のために

□学校として

- 生徒が自分の長所や短所を知ることができるような取り組みを進め、自己を客観的な視点で見つめ直すことで、さらなる自己肯定感を育む。
- 個々の生徒の理解に努めるとともに、教育活動全般において一人ひとりの生徒の良さが発揮できるような役割や取り組みを、自然にまたは意図的に設定することで、自己有用感を育む。またそこでの生徒一人ひとりの活躍を褒めることで、自尊感情を育む。
- 教科の学習活動や特別活動、総合的な学習の時間において、生徒が他者と関わり、協力して何かを達成することで、やりがいや達成感を感じることができるような取り組みや指導を行う。またその際には人が社会の中で果たすべき役割に触れ、その意識を持たせることで、一人でも多くの生徒がその役割を理解し、自ら進んで他者のためにできることに取り組もうとする意識を養う。

□家庭として

- 日常生活において、子どもが主体的に活躍できる役割や機会を設け、その活躍を積極的に認め、達成感を感じさせることで、子どもの自尊感情や自己有用感を育む。

(3) 学校生活・学習について

- 「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値よりも上回っており、クラスの中での協力しながら話し合いを進めるなどして、学級活動に取り組んでいると感じている生徒が多い。

- 「学校の規則を守っていますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定解答は大阪府・全国の値よりも上回っている。学校生活の決まりを守る中で、楽しい学校生活を送っている生徒の割合が高いことがわかる。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定解答は、全国の値よりも下回っているものの、大阪府の値を上回っており、高い水準にある。
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」に対する肯定解答は、大阪府の値よりも上回っているが、全国の値よりは下回っている。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか」に対する解答は大阪府・全国の値に比べて下回っており、授業の中で生徒がICTを活用する場面が少なかったと考えられる。
- 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」「1、2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」に対する肯定解答はいずれも大阪府・全国の値よりも上回っている。教科の授業や総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、課題解決のために自ら進んで考え、周りの生徒と話し合い、自分の考えを深めながら解決方法を考え、わかりやすく発表しようと取り組む生徒が多いことが分かる。

改善・向上のために

□学校として

- 教科の授業・特別活動・総合的な学習の時間において、クラスで話し合い、協力しながら授業や行事、学校生活が充実したものになるような取組みを継続的に行う。
- 決まりを守ることの大切さを実感し、それがあからこそ楽しく充実した学校生活を送れることを生徒がさらなる実感を持つことができるよう、働きかけを続けることで、誰もが安心して生活できるクラス・学年・学校をめざす。そのためにも、「いじめはどんな理由があってもしてはいけないこと」という意識が学校全体に広がるよう、道徳をはじめとする教科の授業やクラス活動の中で促していく。
- 授業で学んだことや、クラスで話し合ったことを自分に返ししながら、自分の生活に役立てることができるよう、学校生活の中で経験したことや話し合ったことを定期的に振り返り、自分のこととして考える場面を設定する。
- 教科の授業や総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、課題解決のために自ら進んで考え、周りの生徒と協力して話し合い、自分の考えを深めながら解決方法を考え、わかりやすく発表しようと取り組む生徒の割合が高い状態を維持することができている。それらの活動をさらに改善していくための1つの手段として、授業の中で生徒がICTを活用することで、円滑なグループ学習や話し合いや学び合いなどを進められるような授業改善に取り組む。

本校教育活動の充実に向けて、次世代を担う生徒達に困難に打ち克ってくじけない「知」「徳」「体」の調和のとれた「総合的人間力」を育成するため、「わかる授業づくり」魅力ある学校づくりに「のため、指導法の工夫改善と子ども理解をより深め一幼一小一中の小中一貫教育を強みとして、「確かな学力」を育む取り組みを進めてまいります。今後も保護者のみなさんや地域のみなさんのご協力とご理解をお願いいたします。

※この内容は、11月18日（月）以降南千里中HPにもアップロードされます。